

令和3年度「市長と語ろう会」実施報告(概要)

市長と語ろう会の
実施目的

本市の広聴機能の充実に向け、市の重要施策や事業について、市民の皆様が要望・提案等ができる機会を拡充し、市政に関する関心や理解度を向上させるとともに、市民とのコミュニケーションの中で、各地域や世代・職業等による個別課題を共有し、市民と行政との協働によるまちづくりを推進する

1 開催概要

① 開催テーマ

災害に強く命をつなぐ「あんしん・あんぜん」の高知市
～みんなで取り組む防災対策について～

② 開催日程等

開催日時	対象 (開催場所)	参加(予定) 者数
令和3年11月30日(月) 18:30～20:30	防災活動に関わる女性 (こうち男女共同参画センター「ソーレ」)	12人
新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止	市内大学の防災サークルの学生 (市民活動サポートセンター大会議室)	(10人)
	市内私立中等高等学校の教員 (市役所本庁舎6階会議室)	(16人)
	市商工会議所および 県商店街振興組合連合会の会員 (市役所本庁舎6階会議室)	(20人)

③ 市長からの説明内容

- 風水害に備える
- 防災アプリ
- 避難情報について
- 南海トラフ地震
- 南海トラフ地震への備え
- 防災対策への女性の参画
～その必要性について～



今回いただいたご意見やご提案は、
今後の取り組みの参考とさせていただきます。

2 意見交換会で出された主な意見・提案

子育て世代からの意見

- 小さい子を抱えて南海トラフ地震に強い不安がある。せめてお母さん同士でつながりを持つことができれば・・・
- 社会のお母さんの忙しさが解消しないと、地域活動に女性が参加しづらいことは根本的には解決しない。

性暴力・性犯罪

- 避難所でのプライバシーや、性暴力・性犯罪への対策は大丈夫？

在宅避難に関する事

- 避難所に行く選択をしない人が増えてくると思う。在宅避難等をした場合、支援助物資等の情報の入手手段は？
- 避難所で在宅避難者を把握することで、対応することの検討はできないか？

防災への若い世代の参加に関する事

- 若い世代でも被災地ボランティア等を通じた経験を防災活動につなげればという思いはある。
- 若い世代へはSNSなどでの継続的な情報発信が必要。

防災教育に関する事

- 防災教育に避難所運営ゲームのような実践的なものを取り入れてほしい。
- 被災時に学生は、どのようなことで地域に貢献できるのか学習したい。

自主防災組織の活動に関する事

- 女性の役割が固定化されている。男性の多い地域の防災活動に入っていくにはハードルが高い。
- 地域の男性には、女性の視点からできることが何なのか理解が十分でないところがある。女性や若者が参加して、自分たちは何がしくて、男性に何をしてほしいのかを伝え巻き込めたらいいと思う。

女性のチカラに関する事

- 女性は会議に参加しても、それで終わらずに広げていくことができ、いろいろなつながりを持っている。
- お母さん同士のコミュニケーション能力やつながりは強い。そこを防災につなげていければ。
- お母さんは、子どものことになったら本気になる。プラス防犯というようにお母さん・おばあちゃん目線で気が付くことから活動できるのではないか。

市からの情報に関するもの

- 各地区の避難所の備蓄物資の情報を出してほしい。家庭での備蓄の必要性を危機感をもって伝えるべき。
- 移住者にしっかりと南海トラフ地震等のリスクについて伝えておくべき。広報でもわかりやすい情報発信が必要。
- 長期浸水地域からの避難場所や、臨時情報が出た時の受け入れ場所についての情報がなく、逃げる人がいる。
- 車中泊の検討も必要ではないか？

その他、多くのご意見、ご提案をいただきました